

2022年 尿道留置カテーテル関連感染サーベイランス

院内感染対策委員会 ICT

2023年3月

期間:2015年1月~2022年12月

NHSN: 感染率:2.6 使用比:50%タイル値 0.79

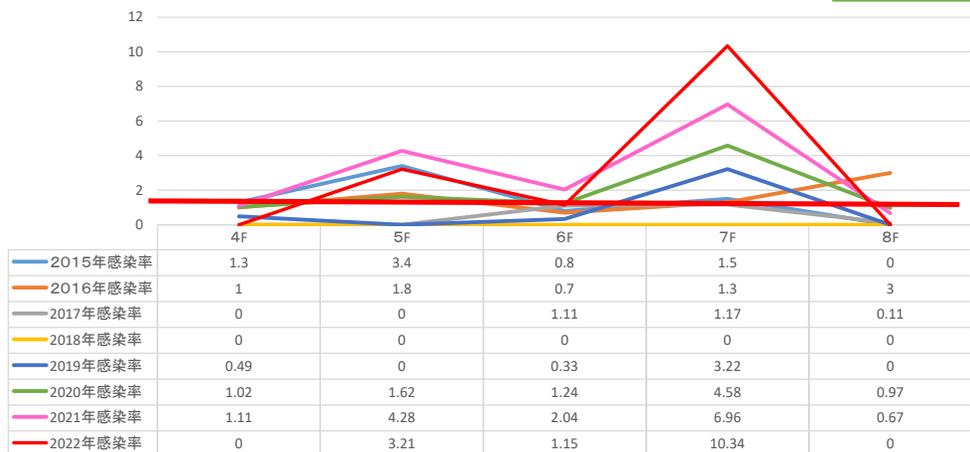
対象:4F~8F病棟

算出方法:CAUTI率=CAUTI感染件数/延べ医療器具使用日数×1,000

使用比:延べ医療器具使用日数/延べ患者数

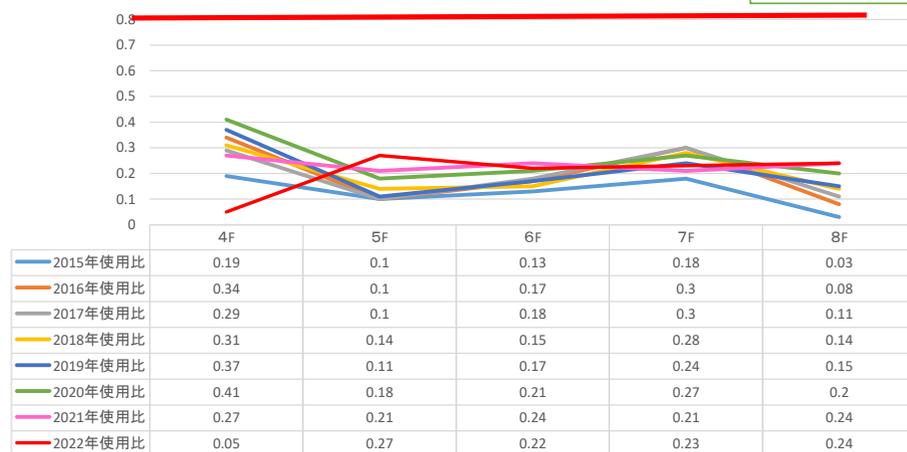
病棟別感染率推移

参考値:2.6



病棟別使用比推移

参考値:0.79



(評価)

・尿道留置カテーテル感染についてサーベイランスを開始して9年目となった
 ・使用比は大きく変化はないが、感染率は2022年より7F以外は全体的に減少している。前医からの留置や入院時の留置数は増加傾向にある。長期理由の原因は尿閉、神経性膀胱炎、医師指示による尿量管理が多かった。また、7Fでは心カテ目的で挿入し抜去後の感染が見られる傾向が多い。挿入時・挿入後の感染管理を定期的確認・指導が必要である。
 長期留置による感染リスクはあるため、今後評価システムを確立していく。感染率が高くなっていることから手技の確認も再度必要と考える。早期抜去はもとより、挿入時・挿入後の尿道留置カテーテルの管理も含めて手順の確認を行っていく。膀胱用超音波を使用して再挿入となる場合もあり、活用はしていくが抜去に直接的につながる事例ばかりではない。
 そのため今後もデータを取りながら、個別介入を継続していく必要がある。

2022年長期留置患者挿入理由

